

令和6年度 讃岐民芸館 秋の企画展

「秋の夜長の灯り」展

讃岐民芸館は、大小様々な燭台や行灯を所蔵しています。その多くは蠟燭を灯すタイプのもので、用途によって形象は様々です。

江戸時代に使われていた行灯は、紙を貼った枠のおかげで、火の周りに囲いのない燭台に比べて、火が消えにくくなりました。そのかわり、光の強さは今の60ワット電球の50分の1程度です。しかしLEDなど現代の照明の明るさとは違い、ほのかに明るく、ゆらめく炎に心落ち着かされます。

こうした柔らかな灯りの照明具は、秋の夜長を過ごすには最適なアイテムです。ゆらゆらとした蠟燭の炎を想像しながらご鑑賞ください。



◆開催概要◆

- 【会場】 栗林公園 讃岐民芸館（古民芸館）
- 【期間】 令和6年9月13日（金）～12月15日（日）
- 【料金】 観覧無料 ※ただし栗林公園入園料が必要
- 【展示資料】 燭台、行灯など約30点